

こうじ 工事の げんば 現場より

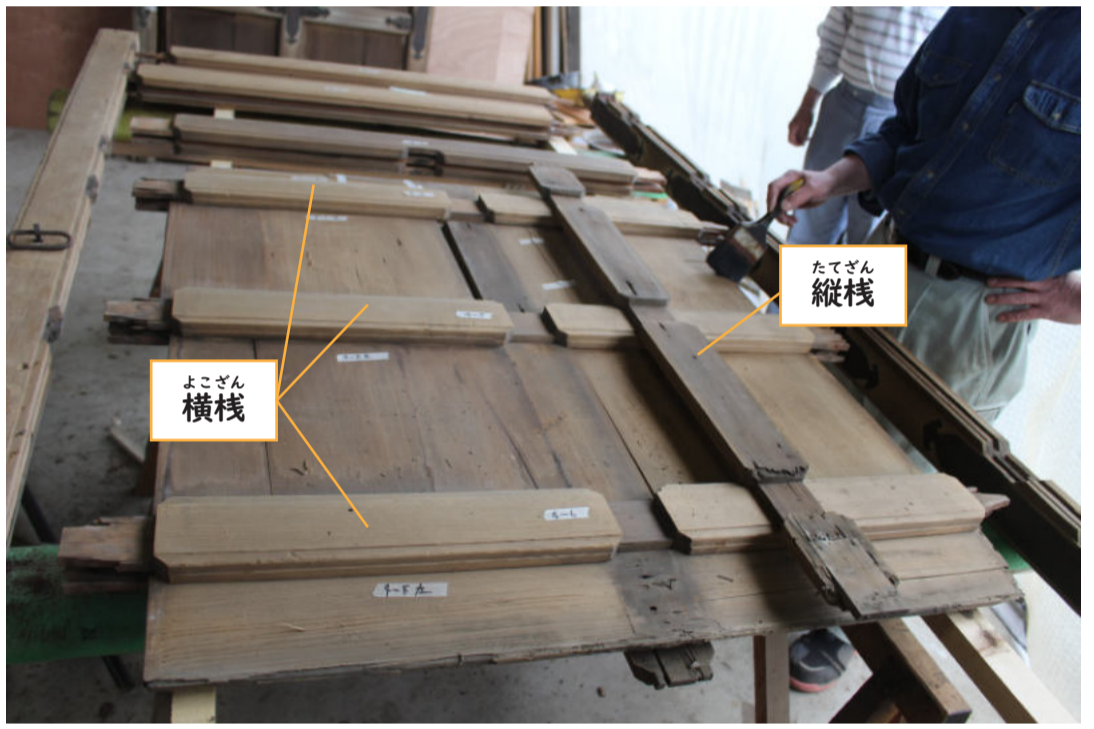


園の外でも工事作業を実施中！。



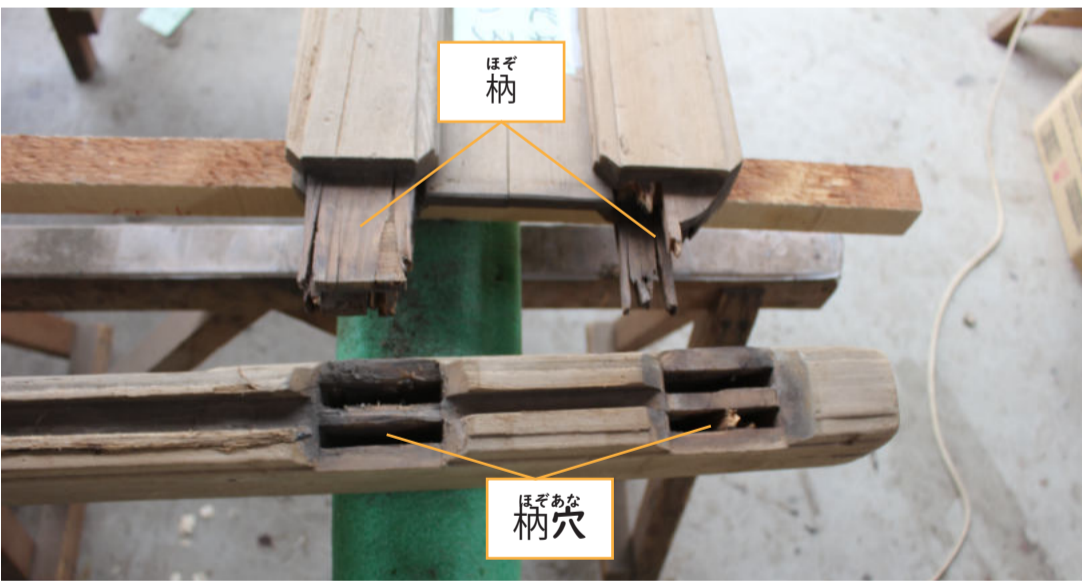
園外篇① 建具

修理工事は建物のある現場で鋭意進めていますが、現場を離れて園外の工場でも行う作業もあります。扉や窓などの建具は建物から取り外して、建具修理の工場に移動して作業に取り掛かっています。取り外し前に一度外観を確認し、傷んでいる箇所を修理方針を検討していましたが、工場に移動した後、さらに解体調査を行い修理方針を改めて決めましたので、これからその作業を進めていきます。なお解体調査により独特の仕様が判明し、昭和修理時のちょっと強引な修理手法も確認できています。

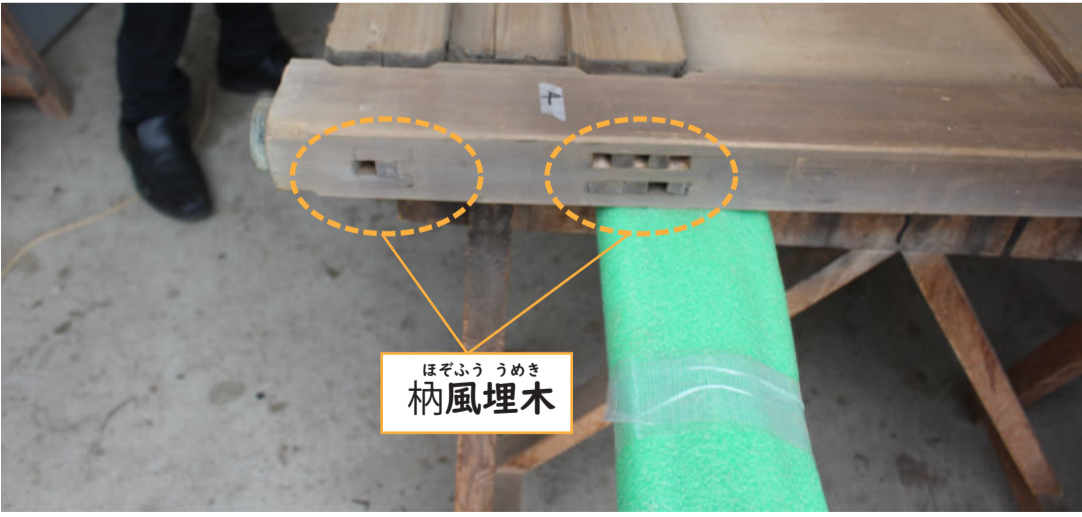
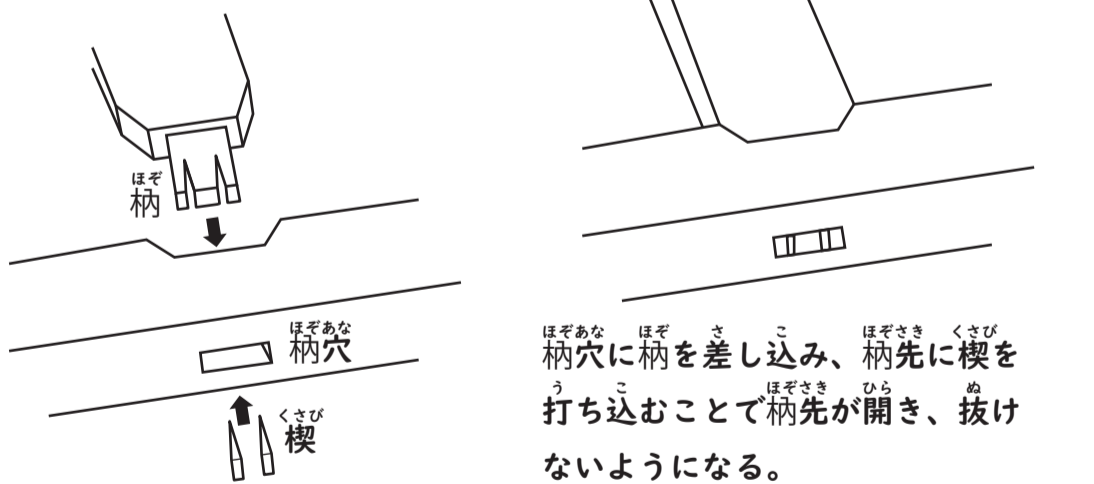


修理工事前の棧唐戸や連子窓。解体調査をしたのは中央の棧唐戸

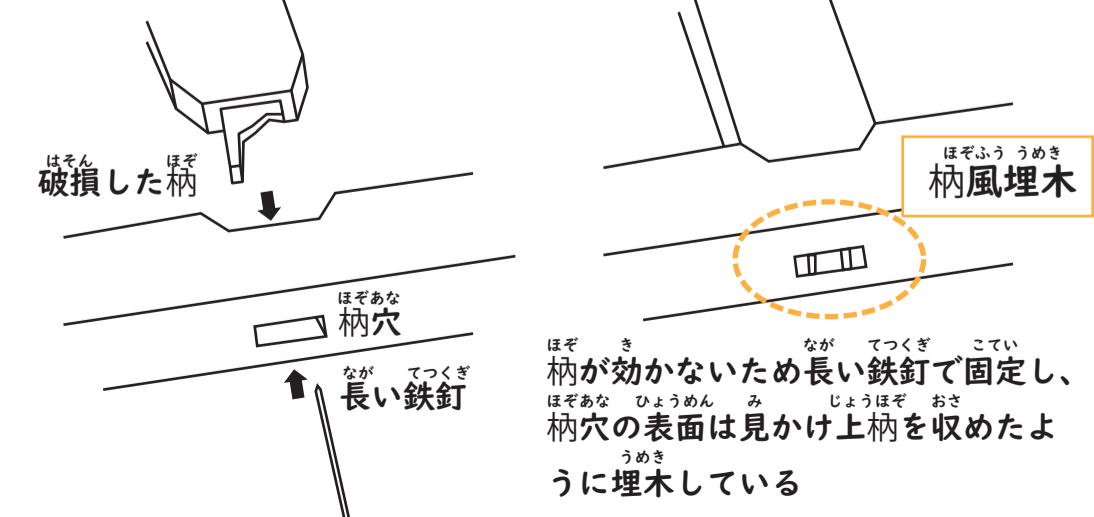
解体したところ、中央の縦棧は表面だけで、横棧3段が通しては入っていることがわかりました。



通常のおさめ方



昭和の修理方法



今回修理では「柄風埋木は止め、破損した柄は接ぎ木して修理し通常通り取り付け」修理を行います。ただし釘の錆が著しく抜けない箇所は、過剰な破損を防ぐため現状維持とします。